

会 議 録

1 会議名

令和5年度第5回有田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・地域独自の予算の事業一覧について（公開）

3 開催日時

令和6年2月26日（月）午後7時10分から午後7時35分

4 開催場所

上越市カルチャーセンター 研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 熊木敏夫（会長）、樺沢早苗（副会長）、市川 禅（副会長）、五十嵐里枝、池田憲雄、牛木幸一、内山幸一、荻原慶一、栗間良子、高橋邦夫、高橋秀樹、平井弘一郎、藤井英夫（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【熊木会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：五十嵐委員、池田委員に依頼
- 議題【報告事項】地域独自の予算の事業一覧について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

・資料No.1「令和6年度地域独自の予算事業」に基づき説明

【熊木会長】

ただいまの説明についてご意見、ご質問等はあるか。

【高橋秀樹委員】

有田区の事業は今までと同じだが、他の区を見ると金額が100万円以上になっているのは、ほとんどがお祭りや観光に関わる事業が多い。使って悪いわけではないが、通年観光を含めて何十億円も使うとあれだけ進めていながら、地域独自の予算からももっていくのか。それは少し違うのではないか。答えは求めない。

【佐藤所長】

ご意見を承った。

【高橋邦夫委員】

わからないので、教えていただきたい。実施主体が市と書いてあるもの、例として、8ページ、三和区が一番上に「高校生通学等支援事業」、実施主体「市」、課は「交通政策課」となっている。これは三和区から提案をされただけで、実際、主体は市だから市が金を出す形になるのか。

【小川係長】

実施主体と提案者がどちらも「市」ということである。三和区総合事務所が提案して、三和区の事業として市が実施する。

【高橋邦夫委員】

市が提案するのに、なぜ三和区のところにあるのかよくわからない。高校生通学等支援事業は全市に係わる内容だと思うが、三和区のところに出てきている。普通であれば三和区で提案をして市全体で取り上げて他の区にも提供するというのならわかるが、そうするとここに載せる必要のないもので、あえて載っていることの意味がよくわからない。

【佐藤所長】

事業一つ一つを細かく把握しているわけではないが、三和区として、交通が不便だということが一つあり、交通政策課も三和区でモデルとしてやってみるという提案の一つだと思う。

【熊木会長】

他にあるか。

【高橋邦夫委員】

よくわからないものがたくさんある。例えば3ページの直江津区の9番の「えちご・くびき野100kmマラソン直江津おもてなしプロジェクト」は直江津区だけがおもてなしをやっているのか。くびき野100kmマラソン全体のそういった活動の中に位置付けてあるのではなく、全然無関係でやるということか。そうでないと成立しないような気がする。

【小川係長】

直江津区のおもてなしプロジェクトは、実行委員会から各地域にエイドの運営に係るお金が出ていると思うが、それとは別で、にぎやかに応援する、のぼり旗を立てたり祇園の屋台をこのときに出して応援したりしておもてなしをする事業である。

【高橋邦夫委員】

いいことだとはわかるが、100kmマラソンはどの区も通るわけだから、声をかけていろいろなところでおもてなしをするのならわかるが、直江津だけがやっているということか。昔は名立がゴールであれば名立の人たちが、頸城がゴールであれば頸城中の生徒がはいてやっていたと今までの報道で聞いていたが。今度はスタート地点とゴール地点がまったく変わるということで、場所はわからないがいいことだとは思いますが一体感がない気がしてならない。

【高橋秀樹委員】

資料をあとでじっくり見てほしい。100万円単位の提案が各区からものすごく出てきている。地域を見ると頸城区や三和区である。三和区は合計で1,500万円である。なので、市が実施する事業と団体が実施する事業の予算を分けてほしい。それは市でやることだからとか、前と変わってしまったとか、今話があったように直江津だけの問題なのかなど、精査していないのではないかという気がする。資料を見ると13区は市が実施する事業が多くて、企画、提案も市の職員がやっているのではないかと感じてしまう。使うのが悪いわけではないが、予算の使い方で「他の区はこんな事業が提案されている。うちもこんなのやりたかった」と来年になるとすごく増えると思う。大きな区では高田、金谷、春日、有田、直江津などは思ったほど金額が多くない。そうすると「こんなことやっているから、うちも出そう」となり、もう明らかにオーバーフローである。さきほど言ったように、観光や地域振興事業という中途半端なものが多すぎる。地域振興は簡単に言えば全て地域振興だが、観光に関わる場所は、今までとどこが違うのか

について精査したうえで区から提案してもらわないと、言い方は悪いが、「じゃあ新たにこれをやるから、これだけ金くれよ」と言ったらどうなのかということになりかねない。限られた予算の中でやるということであれば、しっかりと各区の調整をとってほしい。

【佐藤所長】

地域独自の予算事業は、令和6年度で2回目になる。高橋秀樹委員がおっしゃったように100万円単位のものが増えていて、これからどんどん増えていくのではないかと、令和7年度はもっと増えるのではないかとのお話をいただいた。私個人的には増えていくのではないかと考えている。そのときに、この地域協議会の中に活動団体の皆さんからお入りになっていただいたり、町内会の皆さんからも入っていただきながら、我々の情報を皆さんに提供しながら、一緒に地域活動や地域独自の予算事業を、事務局と一緒に考えながら、新たなものを作り上げていくことも可能だろうと考えている。次年度委員改選があるが、次年度はぜひ有田区も、地域独自の予算の事業数が増えていくことを事務局としては願っている。

【牛木委員】

えちご・くびき野100kmマラソンの話だが、これは直江津区から頸城区から各区をまたがった行事である。その中で、直江津地区だけの応援なのか。それとも、くびき野マラソン全体の応援なのか。それは北部まちづくりセンターで把握しているのか。

【佐藤所長】

これは直江津区での事業である。

【牛木委員】

のぼり旗を作って直江津区だけのぼり旗を上げるということか。頸城区は旗を持っていないのか。

【佐藤所長】

他の区では実施しない。もともと100kmマラソンで予算があり、走る区のスポーツクラブ等に配分になる。そこで応援や水分補給、お手伝いの人足等が必要になる。それ以外に、では直江津区は何をするか、直江津区でにぎやかさを考えた結果がこの事業である。

【牛木委員】

組織は別ということか。組織が別でなければ分配がわからなくなってしまう。これは、別組織として、くびき野100kmマラソンがブランチした組織ではないということか。

【佐藤所長】

そうである。

【牛木委員】

そういうことであれば、高橋秀樹委員が言われたとおり、これからこういう事業がものすごく増えていくと思う。

【佐藤所長】

これが地域独自の予算なのだろうと思っている。

【高橋邦夫委員】

先ほど高橋秀樹委員が言われたように、バラバラな感じがする。全市にまたぐような内容に見えているが、バラバラに提案しているから違和感がある。事業名がそうになっているからそのような感じを持つのもかもしれない。それから、一過性のイベント型のものが非常に多い。祭りだといってポーンとその日やれば終わり。40周年記念事業をやって、次の年に41周年記念事業の提案をするわけがない。そういうものが、どうして地域独自になるのかと感じた。

自画自賛ではないが、有田区の4つは地域活動支援事業からずっと継続していて、たった1回やっているわけではない。通年的にやっている。有田福祉の会をはじめ、350同友会も長く花壇整備事業をやっていて、これはただ植えるだけではなくて、きちんと育てて花を咲かせるまでずっとやっている。有田地区体育・レクリエーション協会は確かに一つ一つの行事は一日で終わるが、トータルとして有田区の健康増進や人的交流を深めるという非常に大きな目的の中でやっているものである。直東学園のキャリア教育も5月からずっと通年でやっている事業なので、こういうことこそ地域独自の予算でないとできないものだと思う。一発芸のようなところにどんどん金を出していると、「じゃ、うちらも、一発芸で来年出すか」となるような感じがしないでもない。だから、昨年出てきたものと、令和6年度に出てきたものと非常に大きく雰囲気は違っている。庁内の中でもうまく整理がされてないのではないかな。他のところでもいろいろな意見が出てくると思うので、そのあたりの整理をしていただかないと混乱が起きるのではないかな。さらに来年度は、自己負担が2割ということになると、なかなか厳しいものがあると思う。

【高橋秀樹委員】

地域独自の予算事業は、残念ながら地域協議会は自分たちのところの審査をするとい

ったこともほぼなく、一覧表が出てきて参考に見てほしいというだけである。だから、事業についての意見も言えず、事務局でしっかり手綱を締める以外に手はない。要は、地域協議会としての関わりは全くない。各団体と事務局との関わりのみである。それも含めて、1、2年やってみてどうだったかと検証しないと大変なことになる。さきほど言ったように、市が今年予算の何千億円かけた中に該当するような項目がかなりある。悲しいことに、あれだけ問題になった防災等の事業は全くない。お祭り中心型のような、本当にこれが地域独自の予算と言えるのか。市議会に諮るから、意見を言う機会もなにもない。本当にそれでいいのか。中で少し検討してほしい。

【牛木委員】

高橋邦夫委員が言われたにぎやかしのイベント、いわゆる一発花火が多い。確かに見た感じはそういう感じがする。だが、それは地域として一発花火が大事だと思うのであれば、私は、それだからいけないという話にはならないと思う。そのにぎやかしをやって地域を盛り上げる、それが活性化になればいい話であって、にぎやかしだから、一発花火だからという話にはならない。ただ継続性があるか、歴史的背景があるものであればなんら問題はないと思う。こういうものを採っていくのであれば、各地域で知恵出しがもっと必要だと考えていくのではないか。

【佐藤所長】

100kmマラソンは、地域活動支援事業で採択を受けていた事業である。マラソンは2年に1回で、コロナ禍で実施できない年もあったが、コロナも落ち着いたので再開したと伺っている。

【熊木会長】

他に意見を求めるがなし。

次に、4その他について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

今期の地域協議会の活動は、本日の活動報告会と第5回地域協議会をもって終了としたい。ただし、任期中に関係課から報告事項等の要請があれば招集する場合がありますのでご承知おきいただきたい。

【熊木会長】

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。